

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	13	学校名	浜松特別支援学校城北分校	校長名	園田 一哉
------	----	-----	--------------	-----	-------

【教員評価】 A：達成できた B：8割ほど達成できた C：あまり達成できなかった D：達成できなかった

【達成状況】 教員の評価基準AとBを足した数字

【評価】 A：達成状況 100～80% B：79～50% C：49～20% D：19～0%

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	担当
ア <授 業> 個別最適な学びと協働的な学びを実現する学校					
生徒が夢中になれる学校生活づくり	時期毎、取り組むべきことを明確化・焦点化している。	95.8% A：25% B：70.8% C：4.2% D：0% 生徒 91.3% A：52.2% B：39.1% C：4.3% D：4.4%	A	学校生活のテーマにそって取り組むべきことを明確化、焦点化することができた。職員がまずそれぞれの立場から自分事として考え、チームとして意見をすり合わせていくことで、授業づくり、雰囲気づくりをより充実させていきたい。 生徒は、大半が「学校生活が充実している」と回答したが、学校生活に不満がある、人間関係で問題を抱えていると回答した生徒も少数いた。自己理解し、将来に見通しをもって学校生活を楽しめる工夫や進路指導ができると良い。	学部 学年
個別最適な学びの充実	学びのプロセスと個々の成長を想定した支援目標及び個別の指導計画に基づいた指導ができている。	95.8% A：20.8% B：75% C：4.2% D：0%	A	支援目標、指導計画の目標設定では、個別最適な学びを考えられている。定員増となり、実態幅の広がりに応じた個別最適な学びの充実のためのプロセスを検討していく必要がある。	教務課 学年
協働的な学びの充実	集団で取り組む良さを生かした授業づくりを実践している。	95.9% A：29.2% B：66.7% C：4.1% D：0%	A	効果的な集団での授業づくりが概ねできた。集団になることで、生徒の姿勢、態度など、行き届かない部分もできているので、メリハリのある授業をめざしていきたい。	学部 学年
自立活動の充実	教育支援計画を基にアセスメントを行い、的確な指導目標を導き、教育活動全体を通じた指導の中で効果的な学習ができる。	91.7% A：16.7% B：75% C：8.3% D：0%	A	教育支援計画を基にアセスメントをしてきたが、一人一人にじっくり時間をかける余裕がなく、全員が的確な目標が導き出せたかは不安が残る。職員の自立活動への理解や目標設定の考え方等、研修を続け、共通理解のもと、進めていきたい。	研修課

作業学習の充実	達成したい目標とは何かを明確にした授業づくりをしている。 授業や單元ごとに個々の学びを共有できている。	95.8% A : 25% B : 70.8% C : 4.2% D : 0% 保護者 95.4% A : 58.5% B : 36.9% C : 4.6% D : 0%	A	目標を明確にした授業づくりはできた。しかし、販売会に向けた作業になっている傾向がある。単元計画や作業全体としてのねらいたい目標を明確にし、班長会から各班へ共有していく必要がある。また、個々の学び過程や学びの自己理解、他者評価の積み重ねについて工夫した授業づくりに努めていきたい。 保護者から、働く力や気持ちが育ってきたと感じたという評価が高かった。	研修課 学部
ICT活用の促進	ICTを活用した授業づくりをしている。	91.7% A : 16.7% B : 75% C : 8.3% D : 0%	A	個人端末の仕様の違い、職員の苦手意識などから、活用の広がりはなかなかみられない。研修や全体として活用していく体制づくりをすることで活用の広がりにつなげていきたい。	教務課
健康指導、性の指導の充実	生徒の実態に応じた健康に関する指導ができています。	95.8% A : 20.8% B : 75% C : 4.2% D : 0%	A	各学年の学習内容の共有や、3年間をとおしての学習の系統性を検討していけると良い。	体育保健課
道徳指導の充実	各教科等で道徳指導の観点を押さえた指導を行っている。	95.8% A : 8.3% B : 87.5% C : 4.2% D : 0%	A	道徳的観点があることで、道徳的見方を考えるきっかけになっていた。全ての授業において観点を抑えた指導ができたわけではなかった。指導内容、観点の職員間の共有が必要であった。	教務課
イ <安全・安心> 命と人権を大切に作る学校					
命を守る意識と行動力の向上	COCOOを活用した安否確認に慣れ、開封率・回答率100%を達成している。生徒自身の意識が高まる働き掛けや指導ができています。	95.9% A : 16.7% B : 79.2% C : 4.1% D : 0%	A	事前通知有りのCOCOOを活用した安否確認の第1次開封率は94.2%であった。「必ず開封」を年に何度か呼びかけていく。 校内での避難訓練にも取り組んだ。日常生活している教室内の危険個所について生徒自身が考える場を設けた。安全な避難、浜松城北工業高校との連携等について検討していく。	生徒指導課
安全・快適な環境づくり	安全や事故防止を意識した教育活動及び環境設定に取り組んでいる。	100% A : 33.3% B : 66.7% C : 0% D : 0%	A	未然に事故防止ができるよう、引き続き計画段階での危険予想と安全対策等に取り組んでいきたい。	体育保健課
事故防止の強化	けがや事故の予防を心掛け、実態に応じた配慮を行っている。	95.8% A : 37.5% B : 58.3% C : 4.2% D : 0%	A	各学年、実態に応じた配慮や事故防止への啓発に取り組むことができた。学校運営で、事故防止の強化のために取り組んでいることを、職員全体に伝えていきたい。	体育保健課

人権を守る意識と行動力の向上	学校が生徒の居場所（安心する場）となるよう、人権を意識した言動を心掛けている。いじめアンケートを実施し、アンケート結果に応じて対応をしている。	91.7% A：37.5% B：54.2% C：8.3% D：0% 保護者 96.9% A：60% B：36.9% C：3.1% D：0%	A	生徒の呼び方の点で、職員全体の意識を高めたい。職員一人一人の感覚の違いをなくし、職員全体で共通した、生活年齢に応じた支援・指導や生徒の言動へのアプローチをしていく必要がある。 いじめアンケートを実施し、気になる点に応じて聞き取りをしたり、面談をしたりして対応した。また、家庭とも情報共有し、連携して対応することができた。 保護者から、相談に適切に対応できていたと高い評価が得られた。	生徒指導課
相談体制づくり	校内で生徒が相談しやすくなるために面談の機会を設定している。	100% A：41.7% B：58.3% C：0% D：0% 生徒 97.1% A：63.8% B：34.8% C：0% D：1.4%	A	希望制で管理職面談を行った。また、相談相手を自由に選択して相談できる仕組みをつくった。年度の早い時期から取り組めると良かった。 生徒は、大半が「いつも相談にのってくれる」「声を掛ければ代替相談にのってくれる」と回答した。相談できないと回答した生徒もいたので、誰もが相談しやすい体制をつくっていけると良い。	生徒指導課
ウ <協働> 家庭、地域、関係機関と協働して支援する学校					
発信力の向上	学校を知ってもらえる伝え方、発信の仕方を工夫している。	100% A：29.2% B：70.8% C：0% D：0% 保護者 98.5% A：26.2% B：72.3% C：1.5% D：0%	A	ホームページ、Instagram、高校の電子掲示板等で情報を発信することに努めた。特に中学校の進路指導につながる啓発活動や実践を増やしていけると良い。 保護者からは、学校の様子がだいたい分かったという評価が大半であった。	企画会 学部 教務課
進路指導の充実	生徒の「夢」を育み、本人・保護者の「願い」を大切にした進路指導を行っている。	100% A：20.8% B：79.2% C：0% D：0% 保護者 90.8% A：38.5% B：52.3% C：6.1% D：3.1%	A	本人・保護者の「願い」を大切にした進路指導ができた。今年度より1年生の実習が1回となり、ここを逃すと経験せずに進級することが起こるため、今後、最適な進路指導の方法について、検討する。 保護者から、生徒の願いや良さが大切にされた学校生活を送ることが概ねできていたと評価が得られた。企業見学や企業以外の進路先情報のニーズもあるので、個に応じた進路指導の更なる充実を図りたい。	進路指導課
センター的機能の充実	高等学校のニーズに対応するため、教育相談、研修支援等への依頼に応じている。	100% A：45.8% B：54.2% C：0% D：0%	A	ニーズに応じて教育相談、研修等に出向いた。積極的に相談を持ち掛けてほしいが、日常の業務もあるため、あまりに多数であると難しい。同じ敷地内の高校との連携は深めていきたい。	生徒指導課

エ <チーム> 教職員が夢を持って学校づくりに参画し働きがいを感じる学校					
コミュニケーション力の向上	働きやすいチームとなるよう、相手の立場に立った伝え方、受け止め方を心掛けている。	87.5% A : 25% B : 62.5% C : 12.5% D : 0%	A	それぞれの業務を担当に任せた後の見届け、他との共有がなされていないことがあった。それぞれの思いの違い、遠慮等からチームに共有されないこともあった。風通しの良い環境、チーム作りに努めたい。	企画会
働き方改革の推進	週に複数回、空き時間を確保している。 時間外勤務 45H/月以上が連続する職員はいない。	91.6% A : 33.3% B : 58.4% C : 8.3% D : 0%	A	空き時間の確保が難しかったり、職員が欠け、体制的に難しかったりするところもあった。グルーピングの工夫等、改善策を見出していく。 月 45 時間以上が連続する職員はいなかった。	学部 学年 企画会
倫理観の向上	不祥事 0 件	100% A : 83.3% B : 16.7% C : 0% D : 0%	A	不祥事は 0 件であった。 交通事故加害 1 件 (軽微な衝突)	管理職